

第2回委員会のふりかえり

| 第2回委員会 意見 キーワード | 分類 |
|-----------------------------|------------|
| ・2060年、生産年齢人口の減少 | 社会情勢の変化 |
| ・人口減少社会において地域の負担にならない施設に | 社会情勢の変化 |
| ・人口減少社会における新たな視点での検討 | 社会情勢の変化 |
| ・首都圏から地方への分散 | 社会情勢の変化 |
| ・地方創生につながる道の駅 | 地方創生 |
| ・新たなデザインの商品開発 | 新たな視点での再編集 |
| ・地域産品のブランド化、観光拠点、雇用創出 | 地域ブランド |
| ・町民の意識改革 | 意識改革 |
| ・団体旅行から個人旅行へ | ターゲット層 |
| ・クラブツーリズムなどの団体観光 | ターゲット層 |
| ・幅広い層に受ける観光商品開発 | ターゲット層 |
| ・只見線利用者を含めた入込算定 | 規模算定 |
| ・運営者 | 運営者 |
| ・ニッチな層→幅広い層に向ける観光資源へ | 観光資源 |
| ・景観への配慮 | 景観への配慮 |
| ・来訪者と地域住民がつながる道の駅 | ゲートウェイ機能 |
| ・関係人口を築く | ゲートウェイ機能 |
| ・伝統文化を活かした交流 | ゲートウェイ機能 |
| ・地域センター機能を含めた検討が必要 | 地域センター機能 |
| ・地域センター機能の重視 | 地域センター機能 |
| ・道の駅で地域の野菜集荷、宅配、安否確認を行う | 地域センター機能 |
| ・道の駅の「地域センター機能」と振興センターの棲み分け | 地域センター機能 |
| ・道の駅「地域センター機能」と振興センターとの棲み分け | 地域センター機能 |
| ・自然素材の活用 | 自然の活用 |
| ・全国の道の駅は必ずしも良い経営状態ではない | 収支計画 |
| ・只見町の実情に合った入込予測、売上予測が必要 | 収支計画 |
| ・収益部門、非収益部門の区分 | 収支計画 |
| ・維持管理費の整理が必要 | 収支計画 |
| ・オートキャンプ等の収益化 | 収支計画 |
| ・収益部門と非収益部門の整理 | 収支計画 |
| ・大型トラックなどの周辺への影響 | 周辺への悪影響 |
| ・光と影の両方の議論 | 周辺への悪影響 |
| ・中心市街地活性化との整合性 | 他事業、計画との整合 |
| ・第7次振興計画をふまえた将来を見据えた計画 | 他事業、計画との整合 |
| ・国内、世界のエコパークとの連携 | 他地域との連携 |
| ・冬期に道の駅を利用してもらうための周辺道路の除雪など | 仕組みづくり |

| 第2回委員会 意見 キーワード | 分類 |
|--------------------------------|-------------|
| ・ 3 地区が利用しやすいよう移動手段の整備など仕組みづくり | 仕組みづくり |
| ・ 駅前通りと道の駅の連携 | 地域との連携 |
| ・ まちなかとの相乗効果 | 地域との連携 |
| ・ 地域と連携し相乗効果のある施設に | 地域との連携 |
| ・ 企業との連携 | 地域との連携 |
| ・ 民営圧迫にならない施設 | 地域との連携 |
| ・ 3 地区での意識共有 | 地域との連携 |
| ・ 冬期の利用 | 冬季、雪 |
| ・ 「道の駅＝公共が深く関わる施設」という安心感 | 公共施設としての安心感 |

「道の駅 只見」(仮)の整備に向けて参考となる事例

●地方創生の拠点となる「道の駅」の類型別機能イメージ

国交省により、一定の成功を収めている事例の分析した結果、地方創生にむけて機能を発揮する「道の駅」の類型を「ゲートウェイ型」と「地域センター型」の二つに大別されている。

| 地域外から活力を呼ぶゲートウェイ型 | | 地域の元気を創る地域センター型 | |
|-------------------|---|-----------------|--|
| インバウンド観光 | <ul style="list-style-type: none"> ・多言語に対応した案内など、外国人案内所認定の取得 ・地酒やお菓子など、地域の特産品を免税で購入できる免税店の併設 ・外国発行クレジットカードの利用可能 ATM の設置 ・無料公衆無線 LAN 環境の提供 ・電気自動車による周遊観光を可能とする EV 充電設備の設置 等 | 産業振興 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域の特産品によるオリジナル商品開発、ブランド化 ・直接的な雇用に加え、地元生産者からの調達による雇用の創出 ・地元農林水産物を活用した 6 次産業化のための加工施設や、直売所の設置 等 |
| 観光総合窓口 | <ul style="list-style-type: none"> ・観光協会等と連携した地域全体の観光案内機能 ・宿泊予約やツアー手配のための旅行業の登録 ・単なる物見遊山にとどまらない、史実・文化など知的好奇心を刺激する機会の提供 ・地域資源を活かした体験・交流機会の提供 等 | 地域福祉 | <ul style="list-style-type: none"> ・診療所、役場機能など、住民サービスのワンストップ提供 ・高齢者への宅配サービス ・健康、バリアフリーに配慮した高齢者向け住宅の併設 ・子育て支援施設 ・地域公共交通ネットワークの乗継ぎ拠点 ・SS (サービスステーション) 過疎地における石油製品の供給拠点機能 等 |
| | | 交通結節点 | <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通の結節点として地域住民に交通サービスを提供する |
| 地方移住等促進 | <ul style="list-style-type: none"> ・空き家情報や就労情報など、地方移住に必要な情報のワンストップ提供 ・若者に地域の魅力を体験する機会の提供 ・運営スタッフの公募等による雇用機会の創出 ・ふるさと納税に関する情報提供 等 | 防災 | <ul style="list-style-type: none"> ・自衛隊、警察、消防等の広域支援部隊が参集する後方支援拠点機能 ・地場製品の取り扱いや燃料保有・非常電源装置等によるバックアップ機能 ・平時から防災啓発教育のため、既往災害等の情報発信 等 |
| 交流連携 | <ul style="list-style-type: none"> ・地域間交流・連携、地域内交流、交流施設、他の道の駅との交流、産学連携 等 | | |

● 「道の駅 只見」(仮) の参考事例

只見町における「道の駅」整備に関わる参考事例として、前述の“地域の元気を創る地域センター型”機能を有し、全国モデル「道の駅」・重点「道の駅」・重点「道の駅」候補（国土交通省）に取り上げられている「道の駅」の中から、立地特性が似通っている「農村部」「山間部」に立地している「道の駅」を数カ所に整理することとする。その他、先進事例をまとめている書籍からも抽出した。

① 道の駅 「遠野風の丘」(岩手県 遠野市)

○防災拠点

東日本大震災では、復旧、救援に向かう自衛隊・消防隊やボランティアの方々の後方支援拠点として機能

○産業振興の拠点

沿岸被災地の海産物を販売する鮮魚店を開設し、被災地の復興を支援

○観光や地方移住等、総合案内拠点

観光案内所では、沿岸地域の観光復興に向け情報を発信

ふるさと納税制度の紹介、納税者には、「道の駅」の特産品を提供

② 道の駅 「もてぎ」 (栃木県 茂木町)

○「道の駅」を核とした6次産業化

「道の駅」が農家から柚子等を全量買取、手作業で加工、オリジナル商品（33種類）を開発、販売

○地域のにぎわいの拠点

創意工夫の取り組みで利用客数、販売額は10年間で1.3倍に増加

○地域の防災拠点

防災力向上のための防災館を併設。平時からの防災啓発に活用

○ふるさと納税の推進

道の駅の商品をふるさと納税のお礼として地域PRに活用

③ 道の駅 「瀬替えの郷せんだ」(新潟県 十日町市)

○冬期活用

夏と冬の2面活用を目指す豪雪・中山間地の道の駅

○「道の駅」を核に農業実習、移住窓口

夏は農業実習生の受け入れ拠点に、冬は高齢者の共同生活の場として道の駅で越冬し、過疎・高齢化が進む豪雪地帯で、担い手確保と生活支援を同時に担う「道の駅」

④ 道の駅 「あおき」 (長野県 青木村)

○体験交流拠点

地元NPOの体験学習で年間2,148人（うちインドネシアなどからのホームステイ214人）が来訪する

「体験学習の村」(H25実績)

○高齢者サービス、地域防災拠点

特産品の開発・継承及び高齢者宅配サービス等の拠点機能を新設、体験交流拠点機能の拡充、ドクターヘリによる救命緊急患者搬送拠点、大規模災害時での自衛隊等の参集可能な村内唯一の防災拠点として機能の大幅な強化を図る。

⑤ 道の駅 「瑞穂」(島根県 邑南町)

○農家による農家の店

400人を超える組合員が出荷、生産者の顔の見える化を推進。

○ネット通販を導入「みずほスタイル」

早くHPを立ち上げ、ネット通販に力をいれ、町の逸品を紹介するだけでなく、観光・イベント情報、宿泊情報、農業体験・空き家情報も併せて発信。

① 道の駅 「遠野風の丘」(岩手県 遠野市)(人口 約 26,170 人 面積 約 830 km²)

| 道の駅の有する機能 | | | | | | | | | 管理運営 | | |
|--------------|--------|-------------|----------|----------|---------------|----|-------------------|--------|----------------------------|-------------|---|
| 観光 インバウンド | 観光総合窓口 | 進 地方移住等促 | 産業 振興 | 地域 福祉 | 交通 結節 点 | 防災 | 交流 ・ 連 携 | 直 営 | 指定管理者 | | |
| | | | | | | | | | タ ー 第 三 セ ク | そ の 他 | |
| | ● | ● | ● | | | ● | ● | | | | ● |



基礎情報

| | | | |
|--------|---|--------------|--------------------------------------|
| 施設概要 | インフォメーション、産直・物産ホール、漁師の魚屋、レストラン風車 | | |
| 特徴的な施設 | 「漁師の魚屋」：三陸(大船渡)で水揚げしたさんまを中心とする三陸の魚介類を直売。 遠野朝市の店：季節ごとに数十種類の漬物を販売、生産者直売の店 スパイラルマグナス風車：羽根の形がネジ巻き棒という一風変わった風車 | | |
| 駐車場 | 大型：14 台 普通車：161 (身障者用 3) 台 | トイレ (24H) | 男子トイレ：12、身障者用 1 女子トイレ：洋式 8、身障者用 1 |
| 管理運営 | 一般社団法人遠野ふるさと公社 | | |

取り組み内容

| | |
|-----------|--|
| 観光総合窓口 | さむかぜプラザ(観光情報、道路情報、イベント情報、グリーンツーリズム情報、天気予報、プレイガイドなど) 沿岸地域の観光復興に向け情報を発信。 |
| 地方移住等促進 | ふるさと納税制度の紹介、納税者には、「道の駅」の特産品を提供 |
| 産業振興 | 施設では、150 を超える市内の農業者、商工業者が生産・加工・製造した農産物や特産品が販売されており、遠野市の地域経済にとって重要な役割を担っている。 平成 30 年の東北横断自動車道釜石・秋田線の全線開通に伴い、市内を走る自動車の交通量が 4 割減少し「遠野風の丘」の販売額も減少したが、個々の商品の魅力向上と販路開拓に取り組むとともに、高齢化する農業者や商工業者が農産物や特産品を供給できるための運搬手段の工夫を始めている。 復興に向け、沿岸被災地の海産物の販売所を新設。 |
| 防災 | 東日本大震災の発災時には、復興に向けた支援拠点となった。 岩手県広域防災拠点配置計画の広域防災拠点に位置づけられ、ベースキャンプ、備蓄等の高度な防災機能を分担している。 さらに風車を設置し、自然エネルギーの活用に努めている。 |
| 交流・連携 | 岩手県内「道の駅」の共通販売商品を開発 |
| 主な効果等 | 共用開始から 20 年、多くの農業者、商工業者の生産・加工・製造した農産物特産品の販売により遠野市の地域経済の重要な役割を担ってきた。 施設のリニューアルに伴い、個々の製品・商品のさらなる魅力向上が求められている。 |
| 地域団体との連携等 | 風の丘で販売される農産物の食品ロスや特産品の販売ロスを抑制させるため、来訪客の属性に応じた商品紹介の自動化に向けた実証試験を遠野ふるさと公社と岩手大学と共同で行っている。 |

② 道の駅 「もてぎ」 (栃木県 茂木町) (人口 約 11,760 人 面積 約 173 km²)

| 道の駅の有する機能 | | | | | | | | | 管理運営 | | |
|-----------|--------|---|---------|------|------|-------|----|-------|------|-------|-----|
| 観光 | 観光総合窓口 | 進 | 地方移住等促進 | 産業振興 | 地域福祉 | 交通結節点 | 防災 | 交流・連携 | 直営 | 指定管理者 | その他 |
| | ● | ● | ● | | | | ● | | | ター | ● |



基礎情報

| | | | |
|--------|---|-----|--------------------------|
| 施設概要 | おみやげけやき(櫛)、十石屋：手づくりアイスクリーム：野菜直売所：レストラン桔梗：おもてなし情報館 | | |
| 特徴的な施設 | 茂木町防災館：太陽光発電を使った照明や、非常用電源、物資保管倉庫などを備えた防災施設 旧古田土雅堂邸：明治初期から大正時代にかけてアメリカで活躍した日本画家・古田土雅堂。彼が宇都宮に帰国する際に、輸入した組み立て住宅 | | |
| 駐車場 | 小型車 331 台、大型車 5 台、身障者用 4 台 | トイレ | 男 19、女 13、身体障害者用 1、母子用 2 |
| 管理運営 | 第三セクター 株式会社もてぎプラザ (指定管理者制度) | | |

取り組み内容

| | |
|-----------|--|
| 観光総合窓口 | おもてなし情報館：マルチメディアを使って、多くの情報を提供。 ・道路情報及び近隣の道の駅情報 ・観光情報：周辺の観光等について掲示板等により提供、詳細については案内人が提供 ・その他の情報：案内人が常駐しているので個別に対応可能 |
| 地方移住促進 | ふるさと納税の推進：道の駅の商品をふるさと納税のお礼として地域 PR に活用 会員数 3,000 人を超える道の駅のファンクラブ「もてぎすきだっぺクラブ」の創設 |
| 産業振興 | ・「道の駅」を核とした 6 次産業化 六次産業化の拠点として、町の特産品であるゆず等を商品化し、道の駅もてぎオリジナル商品として販売することにより、町産業の振興を図る 農場経営：直売所出荷者の高齢化に伴う対応 6 次産業の拡大：規格外野菜を活用した商品づくり 菌床きのこ栽培所の安定化 |
| 防災拠点 | 防災力向上のための防災館を併設。平時からの防災啓発に活用 避難所、備蓄倉庫、太陽光発電 |
| 主な効果 | 雇用の場として機能している 町職員の研修の場となっている。1～2 年目の町職員は「道の駅」の売り場にている。 |
| 地域団体との連携等 | 跡見女子大学と、観光による地域活性化を学ぶインターンシップ協定を結び、平成 28 年から大学生を受け入れている。 |

③ 道の駅 「瀬替えの郷せんだ」(新潟県 十日町市)(人口 約 51,350 人 面積 約 590 km²)

| 道の駅の有する機能 | | | | | | | | 管理運営 | | |
|----------------------|----------------|--------------------------|------------------|------------------|-----------------------|--------|-----------------------|--------|----------------------------------|-------------|
| 観光 イン バウ ンド | 観光 総合 窓口 | 進 地方 移住 等促 進 | 産 業 振 興 | 地 域 福 祉 | 交 通 結 節 点 | 防 災 | 交 流 ・ 連 携 | 直 営 | 指定管理者 | |
| | | | | | | | | | タ ー 第 三 セ ク ター | そ の 他 |
| | | ● | ● | ● | ● | | | | | ● |



基礎情報

| | | | |
|--------|--|-----|------------------|
| 施設概要 | 農産物直売所（地元スーパー的役割）、食事処、大小会議室 | | |
| 特徴的な施設 | 夏と冬の2面活用を目指す豪雪・中山間地の道の駅 体験交流館キラリ：農村景観や生活文化等を活用して、交流・集会・実習・展示などを多面的に行い、新しい農村・元気な農村づくりの拠点施設として運営 雪室：地下式の雪室には、小学校の教室約 5.3 杯分の雪が入っている。米、野菜、味噌などの貯蔵や館内の冷房にも使用されている。 | | |
| 駐車場 | 小型車 73 台、大型車 5 台、身障者用 4 台 | トイレ | 男 5、女 5、身体障害者用 1 |
| 管理運営 | 株式会社あいぼーと仙田（指定管理者） | | |

取り組み内容

| | |
|-----------|--|
| 地方移住等促進 | <ul style="list-style-type: none"> 地方移住をすすめるため、新規就農の支援 地方移住に必要な空き家情報や就労情報などのワンストップ提供 夏には農業実習生の受け入れ（「せんだ元気ハウス」に宿泊） 過疎・高齢化が進む豪雪地帯で、担い手確保と生活支援を同時に担う |
| 産業振興 | <ul style="list-style-type: none"> 人で不足解消のため、実習生を受け入れ基幹産業の農業を持続させている。 地元農産物による産業活性化 地元農産物の加工施設や直売所の設置 |
| 地域福祉 | <ul style="list-style-type: none"> 冬期は高齢者の生活支援 ・高齢者の越冬のための共同生活の場となる「せんだ元気ハウス」の設置 生活サービスの集約（地域のお茶の間） 日用品販売所（ミニスーパー）、ATM、交流の場の設置（「あいマート」は仙田 楽楽市場の継承と買い物の不便を解消するために開いたものである） 「雪かき道場」開設による除雪ボランティアの育成 高齢者の移動支援（道の駅を拠点としたコミュニティバスの運行等） |
| 交通結節点 | <ul style="list-style-type: none"> 生活関連施設へのアクセス支援（市役所 約 9km、金融機関 約 9km）コミュニティバスの運行 |
| 主な効果 | <p>高齢化が進む中山間地で、住民が安心して生活できる環境を提供しつつある。 その地域が直面している課題に取り組んでいる道の駅である。</p> |
| 地域団体との連携等 | コンビニ業者および農業協同組合からの店舗経営支援と業務提携 |

④ 道の駅 「あおき」 （長野県 青木村）（人口 約 4,360 人 面積 約 57 km²）

| 道の駅の有する機能 | | | | | | | | 管理運営 | | |
|--------------|--------|-------------|------|------|-------|----|-------|------|------------|-----|
| 観光 インバウンド | 観光総合窓口 | 進 地方移住等促 | 産業振興 | 地域福祉 | 交通結節点 | 防災 | 交流・連携 | 直営 | 指定管理者 | |
| | | | | | | | | | ター 第三セク | その他 |
| ● | ● | ● | ● | ● | | ● | ● | | | ● |



基礎情報

| | | | | | |
|--------|---|---------|----------|-----|--------------------------|
| 施設概要 | 農産物直売所、味処こまゆみ、軽食店 戀渡屋（こいどや） ぷらっと家(ホーム)あおき（情報発信・休憩施設） | | | | |
| 特徴的な施設 | ふるさと体験館（信州のそば打ち体験・信州のおやき作り体験ができる）インストラクターは地元住民 昆虫館・情報ギャラリー（ぷらっと家(ホーム)あおき内） | | | | |
| 駐車場 | 小型車 52 台 | 大型車 8 台 | 身障者用 2 台 | トイレ | 男子:7、女子:5、子供用:2、多目的トイレ:1 |
| 管理運営 | 株式会社 道の駅あおき（指定管理者制度） | | | | |

取り組み内容

| | |
|--------------|--|
| インバウンド 観光 | 地元 NPO の体験学習で年間 2,148 人（うちインドネシアなどからのホームステイ 214 人）が来訪する「体験学習の村」（H25 実績） |
| 観光総合窓口 | 道の駅を拠点として体験交流窓口を設置し情報発信を強化するとともに、旅行業登録により オプションツアーを旅行会社へ売り込みを行う等、更なる体験交流人口を増加させ、将来的な定住希望者の増加を図る。 |
| 地方移住等促進 | 移住定住・コーディネータを配置し、村内の空き家情報を提供するとともに、村が活用を進めている田舎暮らしお試し住宅や二地域居住体験住宅の案内など。 移住・定住に向けてのワンストップで情報提供と移住定住に向けての相談業務を行う |
| 産業振興 | 加工施設を増築、見返り漬け生産者の育成、特産品の開発機能を充実 |
| 地域福祉 | 村内の高齢者を中心とした買い物・交通弱者の利便性を高めるため、道の駅「あおき」を拠点とした生活必需品（食品・惣菜・加工品など）の電話やインターネットによる販売・宅配サービスを実施 子育て世代の母親を中心としたフレックスで働ける場を提供 |
| 防災 | ドクターヘリによる救急患者搬送拠点、大規模災害時での自衛隊等の参集可能な村内唯一の防災拠点。 蓄電池、ガス備蓄タンク、ヘリポート等の防災機能施設 |
| 交流・連携 | 道の駅「あおき」を中心に、首都圏を中心とした大学生の学び・体験のフィールド・インターンシップの場としてした村全体を学びの環境を整え、青木村の交流人口の拡大に取り組んでいる。 |
| 主な効果 | |
| 地域団体との連携等 | |

⑤ 道の駅 「瑞穂」(島根県 邑南町) (人口 約 10,410 人 面積 約 419 km²)

| 道の駅の有する機能 | | | | | | | | | 管理運営 | | |
|------------------------------|------------------------|---------------------------------|------------------|------------------|-----------------------|--------|-----------------------|--------|---------------|------------------------|-------------|
| 観光 イン パ ウ ン ド | 観光 総 合 窓 口 | 進 地 方 移 住 等 促 | 産 業 振 興 | 地 域 福 祉 | 交 通 結 節 点 | 防 災 | 交 流 ・ 連 携 | 直 営 | 指定管理者 | | |
| | | | | | | | | | ター ミ ナル | 第 三 セ ク ター | そ の 他 |
| | | | ● | | ● | | | | | | ● |



基礎情報

| | | | |
|--------|--|-----------|---------------------|
| 施設概要 | 土産物売り場、農産物加工場、産直市、観光案内所、レストラン、ネット販売 | | |
| 特徴的な施設 | <ul style="list-style-type: none"> 産直市みずほ 品揃えの豊富さ、組合員手作りによる弁当や当地域の郷土料理。 生産者の顔写真を壁に貼りだし、信頼性を高めている。 ターゲットは広島県からの観光客 50%、邑南町内 20%、その他 30%。 ネット販売 自慢の特産品をこだわりの逸品として売り出すため、生産者に広く声かけしネット通販への参加を呼びかけた。 | | |
| 駐車場 | 小型車 23 台、大型車 3 台、身障者用 2 台 | トイレ (24H) | 男 大 3、小 6、女 7 身障者 1 |
| 管理運営 | 「産直市みずほ企業組合」(指定管理者) | | |

取り組み内容

| | |
|-----------|--|
| 産業振興 | <p>道の駅構内に産直市として、地元でとれた野菜を中心に野菜苗、花苗、農産物加工品を販売している。</p> <p>「産直市みずほ企業組合」の組合員であれば当駅がオープンしている午前 7 時から午後 6 時までの間、バーコードおよび品質表示ラベルを添付の上、都合の良い時に出荷でき、残品については各自が引き取るシステム。組合員は邑南町の町民であれば誰でもなれ、入会金の額により正組合員と準組合員に区別される。組合員は 400 人以上であり、そのため品揃えが豊富である。</p> <p>地域対象だけでなく、ネット販売「みずほスタイル」を積極的に展開したことで対象が全国に広がっている。</p> |
| 交通結節点 | <p>もともと JR バスのターミナル (田所駅) だった施設を道の駅として再整備したもの。</p> <p>現在もバスターミナルとして機能している。</p> |
| 主な効果 | <p>周辺にも同様な農産物直売所が数多く開設されているが、差別化を図るため今まで以上に安心・安全な野菜を提供できるように取り組んでいる。農業に関するトレーサビリティを構築し、各種情報データを管理し企業組合でチェックする方式をとっている。</p> <p>農産物の販売促進や農業と観光との連携による観光振興など農業を中核とした産業振興の実現に向けて露心的役割を果たしている。</p> |
| 地域団体との連携等 | |

会津エリア「道の駅」訪問調査結果 【調査期間：2020年 9月25日～30日】

資料-4

| 1 | 施設名称 | 奥会津かねやま | 尾瀬街道みしま宿 | 会津柳津 | | |
|------------------|---|------------------------|--|--|---|---|
| 2 | 営業開始年月日 | 平成25年(2013年)4月26日 | 平成18年(2006年) | 平成14年(2002年)8月13日 | | |
| 3 | 施設概要 | a コンセプト | 天然炭酸水、温泉も多数湧出、水の郷。食事処では地元産の蕎麦粉を使用した手打ち蕎麦を提供。奥会津町村の特産品を販売し、地域の中核施設として情報発信と活性化を図る。 | 面積は小さいものの、只見川第一橋梁など景色が売りの道の駅としている。 | 只見川電源流域交付金を利用し、奥会津の観光PR施設として開設された観光物産館が前身である。道の駅の制度成立によりトイレが整備され、道の駅「会津柳津」として登録されたが、併設される「斎藤清美術館」も含まれている。 | |
| | | b 敷地面積 | 6,331㎡ | 4,067㎡ | 6,333㎡ | |
| | | c 建物面積 | 980㎡ | 952㎡ | 801㎡ | |
| | | d 駐車台数 | 大型6 小型46 障害者2 EV1 | 大型3 小型50 障害者2 EV1 | 大型6 小型100 障害者1 EV1 | |
| 4 | 運営概要 | a 運営組織 | 株式会社会津かねやま | 有限会社マルシェみしま | 一般財団法人やないづ振興公社(社員13名) | |
| | | b 運営形態 | 株主8名による運営(町が大株主) | 出資者5名(町内商店主)による民間運営 | 柳津町との指定管理契約に基づく管理運営 | |
| | | c 委託方法 | 町の施設3ヶ所を受託(道の駅、沼沢沼キャンプ場、かねやまスキー場) | 町所有の建物を借用して運営 | トイレのみ管理委託契約 | |
| | | d 従業員数 | 8名(正1名 パート7名) レストラン3名、他5名体制 繁忙時期に緊急雇用2名 | 7名(正5名 パート2名) 繁忙時期(GW・お盆・紅葉)に緊急雇用 | 9名(正3名 臨時2名 パート4名) トイレ清掃2名 その他雇用3名 | |
| | | e 年間売上高 | 物販・飲食部門別 | --- | 物販75% 飲食25% | 飲食:33,000千円 売店:42,000千円 農産物:12,800千円 その他:2,000千円(自販機等) |
| | | | 売上位品目 | 物販 1:赤カボチャ 2:天然炭酸水 3:パン 飲食 1:煮込みカツ丼 2:ざる蕎麦ミニカツ丼セット 3:ソースカツ丼 稲庭うどんの販売が伸びているとのこと | 会津産の蕎麦が売れ筋 「桐の炭」ソフトは独自開発商品 | 蕎麦、カツ丼がメイン 純手打ち蕎麦が人気 |
| | | f 年間利用台数/利用者数 | 129,436人(令和元年度) 東北電力の電力館オープンに伴う効果はあまり見られない | 236,000人(令和元年度) ピーク月は10月~11月の紅葉時期 ピーク日は6月の「工人まつり」で1日2,000人 只見線第一橋梁目的のインバウンドは1,000人程度 | 263,000人(令和元年度) (レジ通過者87,554人基準) | |
| | | g 観光バス立ち寄り目的 | 食事、買い物、トイレ休憩 | 只見線第一橋梁目的が多数 | 新潟の中学校修学旅行生がランチ立ち寄り | |
| | | h 維持管理費 | 指定管理料:約9,000,000円 道の駅清掃、電力館清掃:除雪業務受託 | 建物維持管理・観光案内で町から委託料(23万円) 但し建物使用料として町へ20万円支出 | 維持管理費:約600万円(足湯管理200万円) 委託料:898,700円(トイレ管理) | |
| | | i 駅長選定方法 | 役場と会社とで協議 | 物産館従業員から駅長へ | 公社職員から任命 | |
| | | j 駅長報酬 | | 210,000円~380,000円 | | |
| | | k 通販サイト | 無し(供給余力がない) | 町に通販サイトで運営 | 現在は無いがこのコロナ禍もあり検討中(以前通販サイトに登録していたが認知が低かった) | |
| | | 5 | 農産物直売 | a 直売所開設期間 | 通年 | 通年 |
| b 出荷農家 | 町内88名 町外14名 業者88 (業者は坂下や只見ヤマサ商店など) | | | 直売運営組織「産直 こまなかせ」を組織して運営 (町内農家30戸、町外農家30戸) | 82名(但し、現在の出荷農家は半数程度) | |
| c 集荷方法 | 生産者が納品 但し、重量のある赤カボチャを栽培する高齢者へ要請により集荷に伺うことはある 冬期間は路地物が無いため市場からの仕入れ | | | 生産者が納品 | 原則持込みだが、高齢者世帯の一部は集荷町から集荷用の軽トラ1台の提供を受け、毎土曜日朝のみ集荷している | |
| d 価格決め | 生産者が手取り希望価格提示 | | | 生産者が決定 | 出荷者の自由設定(但し、出荷者会議で目安決定) | |
| e 手数料 | 町内20% 町外25% | | | 20%(但し2%を運営組織の運営費へ) | 持込20% 集荷30% | |
| f 購買者動向(町村内・外) | 町内20% 町外80% | | | --- | 町内30% 町外70% | |
| g 売れ残り・廃棄対応 | 道の駅にて廃棄処分 生産者了解で食堂流用有り | | | 道の駅にて廃棄処分 | 出荷者の選択により、回収もしくは割りに販売後廃棄 | |
| h 道の駅からの指定農産品 | 赤カボチャ、アザキ大根 | | | 無し | 無し | |
| i 農家さんの意識(やりがい感) | 数名の方は積極的に取り組んで出荷されている | | | --- | 売上の増加により意識向上 報奨金制度有り:一定売上達成者への手数料還元 売上100万円以上が5,6戸 | |
| j 高齢化対応 | --- | | | 高齢化の進行を危惧している | 農家の高齢化が顕著で60歳代の営農者が皆無。町農政係と協調して検討していく。 | |
| 6 | 再エネ活用 | a 再エネ活用 太陽光・風力・地中熱他 | 特段の活用は無し | 現在特段の活用は無いが、今後木質バイオマスや太陽光の活用を図ってきたい | 特段の活用無し 地中熱利用は灯油・電気に比較してのランニングコストが不明 | |
| 7 | 使用電力 | a 契約電力会社 | 東北電力 | | 東北電力 | |
| | | b 受電電圧(V) | 6,600V | | 6,600V | |
| | | c 受電容量(kVA) | 125kVA | | 105kVA | |
| | | d 年間消費電力量(kWh) | 3,393kWh | | 108,000kWh | |
| | | e 年間電気料金(円) | 4,272,000円 | | 2,700,000円 | |
| 8 | 防災機能 | a 避難所指定有無(地域防災計画) | 指定外 | 指定外 | 指定外 | |
| | | b 備蓄 | 無し | 無し | 無し | |
| | | c 予備電源装置 | 無し | 無し | 無し | |
| | | d 停電時上記利用可能施設 | 無し | 無し | 無し | |
| | | e 災害対応トイレ | 非対応 | 非対応 | 非対応 | |

| | | | | | |
|----|--------|-----------------------|--|---|--|
| 9 | 設置経緯 | a 道の駅構想から計画、オープンに至る経緯 | 「道の駅」登録前は町の物産館「こぶし館」として運営されていたものを、急遽「道の駅」整備の方針が決まり、平成24年「せせらぎ荘」に開設準備室を置いて整備を進め、平成25年オープンにこぎつけた。そのため、教育委員会主管の土器類や地形模型が館内に残置され、「道の駅」として十分なスペース確保が困難。 | 「情報物産館」から「道の駅」に整備した。 | 奥会津地方への会津若松方面からの入口として、只見川流域のPR・振興を目的として設置されていた観光物産館をより有効に活用するため、道の駅に認定していただいた。当初から物産館として運営されていたため、道の駅への移行にあたっては問題は生じなかった。また、当時は指定管理制度が制度化されていなかったため、現在の組織で運営することについて異論はなかった。 |
| 10 | その他課題等 | a 地域センター機能 地域団体連携 | 近隣高齢者宅へ宅配を実施している（蕎麦の出前が多く場合によっては商品も一緒に配達） 地域と身近な施設でありたいとの思いから、現在はお茶飲み場ともなっている。 | --- | 特に無し |
| | | b 冬期間における運営 | スキー場人員増員により少数シフトにて営業 | --- | 営業時間を1時間短縮 雇用者の調整（パート減） |
| | | c 除雪対応 | 道の駅で直接対応（駅長自ら除雪重機運転） | 町の除雪隊が実施 | 道の駅周辺はトイレ管理費から捻出して対応 駐車場は町にて除雪実施 |
| | | d 他の道の駅との連携 | 以下の連絡会で情報交換 奥会津・西会津道の駅交流会 あいつ道の駅交流会 福島道の駅連絡会 東北道の駅連絡会 各地に道の駅が集まる「空港まつり」などに特産品（主に赤カボチャ）の販売を行い好評だった。 | 以下の連絡会で情報交換 奥会津・西会津道の駅交流会 あいつ道の駅交流会 福島道の駅連絡会 東北道の駅連絡会 | 以下の連絡会で情報交換 奥会津・西会津道の駅交流会 あいつ道の駅交流会 福島道の駅連絡会 東北道の駅連絡会 国道49号線で大雪に伴う道路車両立ち往生が発生したことに伴う援助体制について協議 |
| | | e ウィズコロナ・アフターコロナ対応 | 上記道の駅連絡会指導等による対応 | 一般的な3密を避ける対応 食堂のテーブルを減らし、椅子を川側を向かう位置のみ | 国・県のコロナ対策ガイドラインに沿った対応 |
| | | f 騒音対策・車中泊対応 | 特段の対応は無し | 只見線SL運行時は前日から多数の車中泊有り | |
| | | g 今後の事業展開 | 特産品を利用した6次化商品の開発 | 町と連携しての商品開発 | 6次化商品の開発、レンタサイクル事業、加工所検討 |
| | | h その他 | 万引きが発生するため監視カメラ設置とレジ位置変更を行った。 フリーズドライ機械を2千万円にて購入し、ソフトクリーム用などにいろいろ試みたが活用できていない。 只見町「道の駅」で活用していただくことも可能とのこと。 | 只見線SL運行時は駐車場が満杯となり一般利用者に迷惑がかかってしまったため、只見線第一橋梁目的の来客と一般客の駐車場を分けて案内することを検討している。また、駐車場の拡張も2・3年後を目途に整備したい。 | 6次化商品の開発は様々トライした。えごま味噌だれ、菜種油ドレッシング、あわ焼酎など。しかし安定した提供に結びつけるのが課題。 |

* 本表に掲載した内容については「各委員限り」との条件で各「道の駅」の了解を得ていますので、取り扱いにつきましては特段の配慮をお願い致します。

会津エリア「道の駅」訪問調査結果 【調査期間：2020年 9月25日～30日】

| 1 | 施設名称 | あいづ 湯川・会津坂下 | 会津西街道たじま | しもごう Ematto(エマット) | |
|---|---------|---|--|--|---|
| 2 | 営業開始年月日 | 平成26年(2014年)10月2日 | 平成7年(1995年)4月26日 | 平成24年(2012年)4月 | |
| 3 | 施設概要 | a コンセプト | 会津盆地の中心に位置し、地域防災力の向上や産業振興、地域住民の交流の場を創出することを目的として、国土交通省と湯川村・会津坂下町に「かわまちづくり事業(川の駅)」「河川防災ステーション(人の駅)」「道の駅あいづ 湯川・会津坂下」が一体で整備され、道の駅は道路利用者の休憩、情報提供などの「交流の拠点」となっている。 | 会津西街道に駐車場・公衆トイレ・特産販売施設と情報提供施設を整備し、近隣観光地の立ち寄りとして利用され、特に屋外テントによる農産物販売が好評である。 | 国道289号線甲子道路のほぼ中間点にあり、標高861mと東北の道の駅では2番目に高い場所にあり、南会津の雄大な山並の眺望や下郷町内を見渡す雲海を見ることもできます。 「Ematto」とは、下郷で「もっと」の意味の方言で、「もっと知ってもらいたい」「もっと味わってもらいたい」「もっと楽しんでもらいたい」が込められています。 |
| | | b 敷地面積 | 15,000㎡ | 8,000㎡ | 10,003㎡ |
| | | c 建物面積 | 1,475㎡ | 300㎡ | 375㎡ |
| | | d 駐車台数 | 大型11 小型100 思いやり2 EV2 第2駐車場93台 株式会社湯川会津坂下 | 大型10 小型44 障害者2 EV1 ピーク時は大型スペースを小型用に転用 株式会社みなみあいづ | 大型8 小型40 障害者1 EV1 |
| 4 | 運営概要 | a 運営組織 | 株式会社湯川会津坂下 | 株式会社みなみあいづ | 下郷町地域振興株式会社 |
| | | b 運営形態 | 20団体による出資による三セク運営 湯川村26%、会津坂下町26% 他に金融機関5社、JA、商工会2団体、地元企業9社が出資 会津坂下町より社長、湯川村より駅長選任 本年度より管理部門の「管理部」と販売部門の「事業部」とに組織編成して運営 | 第三セクター 町100%出資 | 第三セクター 下郷町101% JA15% 商工会15% 東邦銀行15% 会津乗合自動車5% 資本金：500万円 会長：町長 取締役：副町長・株主 |
| | | c 委託方法 | 指定管理による委託 | 指定管理 | 指定管理(単独・5年) |
| | | d 従業員数 | 36名(正11名 パート25名) | 16名(正11名 パート5名) | 14名(正2名 パート8名 アルバイト4名) 町市街地から離れた場所にあるため雇用確保に苦慮している。特にトイレ清掃要員が雇用できず駅長以下スタッフで対応している。 |
| | | e 年間売上高 | 592,232千円(令和元年度) | 246,803千円(令和元年度) | 155,370千円(令和元年度) |
| | | 物販・飲食部門別 | 物販：181,694千円(31%) 農産：277,742千円(47%) 飲食：43,588千円(7%) テナント：12,186千円(2%) *テナントは手数料のみ計上 *テナント売上を含めれば6億4千万超 | --- | 物販：78,067千円 農産：28,064千円 レストラン：27,924千円 テイクアウト：16,087千円 イベント等：3,197千円 自販機手数料：2,011千円 |
| | | 売上上位品目 | 物販：馬刺しがNo.1 飲食：ジェラートが人気(坂下の菓子店テナント) 坂下のお店と提携した冷やしラーメンが人気 蕎麦に天ぷらをセットしたところ売上増 ラーメンとカレーのセットメニューが人気 創作料理も人気(詳細不明) 給食センターが納入する弁当が好評 農産：アスパラ、しいたけ、米、りんご、もも他 (農産品はほぼ全て会津産) 一部、鹿児島などから納品(サツマイモ) 花卉：花の売上が大きい(坂下の花屋) | --- | 物販【食品類】1.パン(社会福祉法人南陽会) 2.倉村まんじゅう 3.あげまんじゅう 物販【工芸品】1.木工・民芸品 2.起き上がり小法師 3.会津木綿生地 レストラン 1.天ざる蕎麦 2.ラーメン 3.ざる蕎麦 テイクアウト 1.ソフトバニラ 2.ブルーベリーソフト 3.ホットコーヒー |
| | | f 年間利用台数/利用者数 | 利用台数：483,685台(令和元年度) 利用者数：1台当りの乗車人数換算 換算係数1.7：82万人 2.5：121万人 上記からおおよそ年間100万人来場 ピーク月は5月、8月、10月 2月が月日数および年1回の定休日設定で入込減 | 利用者数：242,283人(令和元年度) 8月と10月がピーク月(4万人弱/月) 大内宿目的の観光客が多数立ち寄り、駐車場が一杯になることも | 利用者数：145,930人 利用台数：937,572台(令和元年度) 利用者数：1台当りの乗車人数換算 換算係数1.7：82万人 2.5：121万人 上記からおおよそ年間100万人来場 ピーク月は5月、8月、10月 2月が月日数および年1回の定休日設定で入込減 トイレ休憩およびゴミ捨て |
| | | g 観光バス立ち寄り目的 | 目的地へ向かう途中のランチ利用が多い(会津三十三観音巡りなど) | レストランが無いため、主にトイレ利用 | トイレ休憩およびゴミ捨て |
| | | h 維持管理費 | 指定管理料：12,842千円 | 指定管理料無し 電気・水道料金は県が負担 | 指定管理料 2,000～3,000万円(年) 浄化槽の維持管理費が年間300万円と負担 |
| | | i 駅長選定方法 | 当初は一般公募し最終決定したものの直前に辞退 現駅長は道の駅開業前からの社員から駅長昇格 | 社内人事異動による | 社長(町長)選任 (民間企業で流通業界、役員および財務経験者) 現大竹駅長は半導体関連企業の営業・財務およびリオンドール生鮮品バイヤー経験有りの経歴 駅長は開業前の早い段階から選任し、駅長交流会に参加するなどの経験を積ませることと合わせ、必要な資格取得(防火管理者・酒販免許他)が大切とのアドバイスあり |
| | | j 駅長報酬 | | 210,000円～380,000円 | |
| | | k 通販サイト | 現状無いがコロナ渦の影響から検討課題 | 会社のHPで運用 リピーターによる電話注文が多数 冬期間閉鎖(11月中旬～4月中旬) | SNS/Twitter/FaceBook |
| 5 | 農産物直売 | a 直売所開設期間 | 通年 | 冬期間閉鎖(11月中旬～4月中旬) | |
| | | b 出荷農家 | 農産物等直売所出荷者協議会会員(240戸) | 217戸 (町内199 下郷14 只見3 桜枝岐1) JAに出荷している農家も多数 | 41戸 会費2千円にて会員登録 当初80～90戸の農家さんが高齢化で減少 JAからサクランボ買付などで補っている |
| | | c 集荷方法 | 出荷者自ら道の駅バックヤードに納入 バーコードシール貼付し、指定位置陳列 開店前に道の駅スタッフによる品質チェック 納品されないサクランボ・布引高原大根は直接買い付け | ハイエースによる自社集荷 町内御蔵入交流館駐車場にて集荷 (7:30～8:30) 途中で2ヶ所立ち寄り集荷 | 生産者が各々納品 |
| | | d 価格決め | 出荷者自ら市場価格等から価格設定 売上結果は出荷者にメール通知&バックヤードのレターケースに紙で通知 | 生産者各自で設定 | 駅長が個々の農産物適正価格アドバイス(リオンドールのバイヤー経験) |
| | | e 手数料 | 湯川・坂下 農産品14% 加工品20% 上記以外 農産品16% 加工品25% テナント(ジェラート) 14% | 20% 売上実績は郵送・FAX・メールなどで通知 支払はJAにお願いしている | 15% 売上金の支払はJA経由 |
| | | f 購買者動向(町村内・外) | 会津エリア60% 左記以外40% | 町内10% 町外90% | ほとんど町外(県外) |
| | | g 売れ残り・廃棄対応 | 出荷者自ら売れ残り品搬出 残置されたものは廃棄(この場合は手数料徴収) | 当日午後値下げ販売 当社で買い上げ食材・試食に使用 | 3日間で売り場から下げて生産者が持ち帰る |
| | | h 道の駅からの指定農産品 | 無し | 農家さん独自で取組 | 駅長が季節・旬の農産物をその都度依頼 エゴマについては加工するための搾油機などが機械が町内に無い |
| | | i 農家さんの意識(やりがい感) | --- | 道の駅に提供・販売し収益が上がることで積極的になってきた | 専業農家さんは一生懸命だが、年金生活で片手間に生産・出荷している農家さんは意識が低く品質も良くない。 |
| | | j 高齢化対応 | --- | 農業法人からの仕入れで安定供給を図る | Uターンの若い農業従事者(30歳代)へ協力依頼 |
| 6 | 再エネ活用 | 太陽光発電：防災施設で活用 地中熱をレストラン冷暖房および入口融雪に活用 | 特段の活用は無し | 特段の活用は無し | |
| 7 | 使用電力 | a 契約電力会社 | 東北電力 | 東北電力&新電力「ハルエネ」 | 新電力「Ene電気」「須賀川ガス」から供給 |
| | | b 受電電圧(V) | 6,600V | --- | 200/100V |
| | | c 受電容量(kVA) | 195kVA | --- | 71kVA |
| | | d 年間消費電力量(kWh) | 516,429kWh | --- | --- |
| | | e 年間電気料金(円) | 12,184,000円 | 約377万円 | 約300万円 灯油によるヒートポンプ式エアコンにより燃料代300万円(年) |
| 8 | 防災機能 | a 避難所指定有無(地域防災計画) | 隣接する「河川防災ステーション」が担う | 指定外 | 指定外 |
| | | b 備蓄 | '' | 無し | 無し |
| | | c 予備電源装置 | '' | 無し | 無し |
| | | d 停電時上記利用可能施設 | 上記避難所における非常電源 | 無し | 無し |
| | | e 災害対応トイレ | 隣接する「河川防災ステーション」が担う | 非対応 | 非対応 |

| | | | | | |
|----|--------|--|--|--|--|
| 9 | 設置経緯 | a 道の駅構想から計画、オープンに至る経緯 | 道の駅建設地は当初ジャスコ（現イオン）が出店する計画を進めていたが、会津若松市の建設反対や出店における給排水の問題から河川管理者の許可が得られないことなどから計画は取り止めとなった。湯川村内で道の駅構想が持ち上がり、当初は会津坂下町は全くの無関心であったが、共同で整備することが決議され、国・県・両町村の協議会や検討委員会での協議を重ね5年後に開業した。ネーミングの道の駅『あいつ』の使用も会津若松市の抵抗はあったものの、会津盆地の「へそ」に位置することや複数自治体の運営になることから使用するに至った。 | 会津西街道沿いにあるスキー場（6ヶ所）や尾瀬への観光利用に際し、休憩場所やトイレの要望が多く寄せられたことから、平成4年に旧田島町内に道の駅整備について中央陳情を行い、3ヶ年事業で整備し平成7年に福島県内3番目の道の駅として開業した。基本設計を県で進め、実施設計を駐車場・トイレを県が、販売所関連を町で実施設計を行った。近隣飲食店への配慮からレストランは併設しなかった。館内に休憩スペースが無いことと合わさって苦情もある。来客者は道の駅にはどちらもあるもの認識で訪れる。また、事務室が手狭で打合せもままならない状態であり、配慮されたほうがよいとのアドバイスを受けた。 | 平成20年の甲子トンネル開通に伴い、国土交通省より道の駅設置の打診があった。設置場所を含めた設計を東京大学教授に依頼したことで、町、議会、有識者などの意見が全く反映されることがなく、準備から設置、オープンまでの時間も幅広く検討することができなかった。その結果として雪国に合った設計とは言えないところもあり、築山維持や除雪などに苦労している。 |
| 10 | その他課題等 | a 地域センター機能 地域団体連携 b 冬期間における運営 c 除雪対応 d 他の道の駅との連携 e ウィズコロナ・アフターコロナ対応 f 騒音対策・車中泊対応 g 今後の事業展開 h その他 | 会津中央病院の予約受付 特段無し 湯川村にて実施 以下の連絡会で情報交換 奥会津・西会津道の駅交流会 あいつ道の駅交流会 福島道の駅連絡会 東北道の駅連絡会 独自の対応マニュアルを作成して徹底を図っている 車中泊は多いが、2日以上滞在であれば声掛け 会津坂下町の「地域おこし協力隊」と連携した新たな取り組みを行っていく予定である。 「かわまちづくり」の拡張が計画され、道の駅に隣接する広大なエリアに、ストリートスポーツエリア、アウトドア・アクティビティエリア、ドッグランエリア、親水広場・カヌー乗場が令和4年度完成を目指し整備される予定になっている。 | ―― 屋外テント・飲食ブースを閉鎖 本館内での営業に切替 駐車場は県で対応 歩道他建物周辺は自社で対応 以下の連絡会で情報交換 南会津郡道の駅交流会（6駅） 奥会津・西会津道の駅交流会 あいつ道の駅交流会 福島道の駅連絡会 東北道の駅連絡会 他の道の駅・行政と情報を共有しながら対応 特段の対応はしていない 開業して25年が経過し、来客者の要望に沿えなくなってきたことから、レストラン併設、駐車場拡張など、今の時代に合った新しい道の駅の建設を検討していく。（レストランが無いことの苦情も多数） 屋外テントによる販売は来客者には好評だが、従業員の就労環境（暑さ・寒さ、テント組立・撤去の重労働）や陳列野菜の劣化が早い（ホコリ、保冷材を敷いても午後には汗をかく）、レジの増設（屋外用2台）などの課題・懸案が多く、常設での販売はお勧めできない。イベント対応などの一時的な販売形式に適している。 事務室が手狭のため、建物設計にあたっては十分な執務スペースや応対スペースの確保が必要。 | 町内保育園児を無料で食事に招待するイベントを開催している。（50名程度）今年は新型コロナの影響で取り止め。 売上減少が顕著になるため、宅配弁当事業を開始。町内にチラシを配布し冬期間4か月に亘って日替わり弁当（単価500円）1600個配達。 駐車場は県対応 建物敷地はレンタルによる除雪ローダーと会社所有のロータリー除雪機で社員が除雪。（駅長自ら早朝出勤で対応しているとのこと） 以下の連絡会で情報交換 南会津郡道の駅交流会（6駅） 奥会津・西会津道の駅交流会 あいつ道の駅交流会 福島道の駅連絡会 東北道の駅連絡会 常に駅長同士が情報交換し、改善・改革をしているとのこと 県の道路整備局の基準指示により感染症対策を行っている 車中泊車両が多いときもあるが、特段の対応はしていない 経営改革を進めるためのタスクフォース委員会をこの7月に設置し検討を始めた。委員会メンバーは、町長、駅長、JA、有識者（東レ）などで構成。 事務室が狭く、またバックヤードも無いため大変苦労している。清側の仮設ハウスや倉庫を多数設置して対応しているので、建物設計にあたってはそれらに十分配慮することが必須とのアドバイスあり。 建物構造上（コの字型）万引きが多く苦慮しているとのこと。 道の駅は上水道供給エリア外のため、沢水を貯水槽に貯めて利用しているが、沢水枯渇時やトイレ利用者が多い場合には、町側にある消火栓から水を運搬しトイレタンクに補充するなどしている。 |

* 本表に掲載した内容については「各委員限り」との条件で各「道の駅」の了解を得ていますので、取り扱いにつきましては特段の配慮をお願い致します。